

■ 地域振興の役割を担う“笑い”の祭典 ■

第10回「関大笑い講～笑いと復興～」を開催

～ “笑い”の力で震災に立ち向かう！笑いがもたらすパワーとは？ ～

関西大学は12月5日（土）に、大阪府堺市との地域連携事業の一環で、地域振興の役割を担う“笑い”の祭りを堺の地に根付かせるべく、第10回「関大笑い講」を開催します。

「関大笑い講」とは、山口県防府市で800年以上続く由緒ある神事を関西大学に勧請したものです。本学は、大阪に根付く文化としての“笑い”を大切に、“人間と笑いの関係”について研究を続けてきました。本イベントも今年、10回目を迎え、笑いとユーモアによる地域貢献の実を大きく結びつつあるといえます。

今回のテーマは「笑いと復興」。東日本大震災被災地において活用した“笑い”の事例を取り上げ、“笑い”の力について参加者と考えます。“笑い”は、効果的なストレス解消法とされるほか、ナチュラルキラー細胞（NK細胞）の活性化、認知症の予防など、お金がかからず副作用もない健康法として、注目されています。

当日は、本学人間健康学部・森下伸也教授が「笑いで震災に立ち向かう」をテーマに、基調講演として震災川柳、被災地クラウンサーカスなど、“笑い”の力を復興に役立てようとする試みについて解説。その後、2つの講演（①福島県立医科大学・大平哲也教授による「3.11被災地における笑いの状況と復興」、②本学人間健康学部・弘原海剛教授による「進化する堺コッカラ体操—解説と実践」）を行い、被災地におけるさらなる“笑い”の具体的活用方法や、高齢者の認知症予防ならびに身体機能向上、健康増進が見込まれる体操について解説します。なお、②弘原海教授による講演では、堺市と共同で開発した『堺コッカラ体操』を参加者とともに実践する予定です。

本学では、地域社会に生涯学習の機会を提供することを目的に、様々な公開講座を開講しています。堺市とは2008年に連携協定を締結し、2010年に開設した堺キャンパス・人間健康学部を中心に、「スポーツ」「福祉」をキーワードとして、まちづくり・産業・教育等さまざまな分野で連携活動を行っています。

つきましては、ご多忙のところ恐縮ですが、本イベントにかかる取材のご検討を宜しくお願い申し上げます。

記

【日時】 2015年12月5日（土）13:30～16:20 （受付開始 13:00～）

【場所】 関西大学堺キャンパス SB302教室

（大阪府堺市堺区香ヶ丘町1-11-1 南海電鉄高野線「浅香山」駅下車徒歩1分）

【プログラム】

① 基調講演（13:30～14:00）

関西大学人間健康学部教授 森下 伸也 「笑いで震災に立ち向かう」

② 講演（14:10～15:40）

福島県立医科大学教授 大平 哲也氏 「3.11被災地における笑いの状況と復興」

③ 講演・実践（15:50～16:20）

関西大学人間健康学部教授 弘原海 剛「進化する堺コッカラ体操 — 解説と実践」

【取材申込】 返信申し込み用紙にてお申込みまたは下記までご連絡ください。

以上

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



<ご参考>

■ 関西大学 人間健康学部 森下 伸也（もりした しんや）教授

専攻：社会学、ユーモア学

笑いのことなら何でもござれ！ユーモア学のオールラウンドプレイヤーにして日本笑い学会会長。とりわけ得意は笑いの哲学、笑いの宗教社会学。著書に『もっと笑うためのユーモア学入門』、『ユーモアの社会学』など。

日本笑い学会：<http://www.nwgc.jp/>



■ 福島県立医科大学 医学部医学科 大平 哲也（おおひら てつや）教授

福島県立医科大学医学部卒。筑波大学大学院医学研究科博士課程修了後、大阪府立成人病センター診療主任、大阪府立健康科学センター主幹兼医長、ミネソタ大学疫学・社会健康医学部門研究員、大阪大学医学系研究科准教授を経て、2013年2月より福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター疫学部門教授。

専門は公衆衛生学、疫学、予防医学、内科学、心身医学。循環器疾患をはじめとする生活習慣病、認知症などの身体・心理的リスクファクターの研究、及び心理的健康と生活習慣との関連についての研究を行うとともに、運動、音楽、笑い等を始めとする効果的なストレス解消法についての実践的研究を行っている。



■ 関西大学 人間健康学部 弘原海 剛（わだづみ つよし）教授

専攻：運動生理学、運動処方

「糖質飲料水摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響」：いわゆる“スペシャルドリンク”と呼ばれる運動中の栄養補給や疲労回復に効果的なドリンクの開発を行う実験系の研究と共に、「高齢者を対象とした生きがい研究」：ヒトが生涯にわたり、いきいきと健康に生き抜くために必要な要因について運動生理学の観点から実験や調査の手法を用いて明らかにする実践的研究を行っています。



■ 関大笑い講 過去テーマ一覧

- 第1回 『ヒトはなぜ笑うのか』（2005年12月3日）
- 第2回 『笑いの総合科学をめざして』（2007年1月11日）
- 第3回 『笑いのチカラを考える』（2008年1月15日）
- 第4回 『笑いを測る』（2009年1月8日）
- 第5回 『日本の初笑い』（2010年1月15日）
- 第6回 『笑いの底力』（2011年3月20日）
- 第7回 『六代桂文枝一門』（2012年10月13日）
- 第8回 『六代桂文枝寄席』（2013年12月7日）
- 第9回 『医療と笑い』（2014年12月13日）